

# ビジネスデータを 活かすきる 「活文」



少子高齢化にともなう労働力の減少を背景に、いま多くの企業では売り上げや利益の拡大を目的とした業務効率の向上、属人化していたノウハウの共有・継承といった課題への対応を進めています。そこで株式会社日立ソリューションズ（以下、日立ソリューションズ）は、企業内に蓄積されたビジネスデータ活用を支援する「活文」にAI<sup>\*1</sup>を取り入れ、企業のイノベーションを加速する新たなソリューションの提供を開始しました。

※1 Artificial Intelligence

## ビジネスデータ活用を トータルに支援する「活文」

日立ソリューションズが1990年代から提供している「活文」は、企業のコア資産である帳票、文書、図面といったビジネスデータを活用し、新たな価値を生み出すトータルソリューションです。

活文はこれまで、帳票・文書管理や情報共有の仕組みを継続的に進化させる、次のような製品ラインアップで、お客様の業務効率化と生産性向上をサポートしてきました。

### シェアNo.1<sup>\*2</sup>の電子帳票システム

#### <活文 Report Manager>

時間・手間・コストがかかる帳票（総勘

定元帳・注文書・請求書など）の保存と管理をセキュアに自動化。2015、2016年度の法改正でスキャナ保存制度の要件が緩和された「電子帳簿保存法」に対応するほか、パソコンからの参照はもちろんタブレット端末からも帳票を参照・書き込みすることで、データ活用範囲を一段と拡大し、お客様の運用コスト削減や業務効率向上を強力に支援します。

※2 株式会社富士キメラ総研 ソフトウェアビジネス新市場 2017年版 電子帳票関連ツール（運用・保存）パッケージ市場 <2016年度金額>

### 文書管理システム

#### <活文 Contents Lifecycle Manager>

さまざまなオフィス文書の作成（更新）、閲覧（検索）、廃棄、保存など、文

書のライフサイクル全般の作業をパソコンやサーバ上で一元管理し、ネットワーク経由での情報共有を可能にする製品です。ビジネス環境の最適化と情報資産の戦略的な活用を可能にします。

### ファイルサーバスリム化

#### <活文 File Server Optimizer>

膨らみ続けるファイルサーバのデータ量を「可視化」し、把握・分析することで、無理なく容量の「スリム化」を行います。また、効率的に情報を探し出すことで、日々のファイルサーバ利用の「活性化」や、アクセス権の「適正化」、機密ファイルの「暗号化」も実現します。

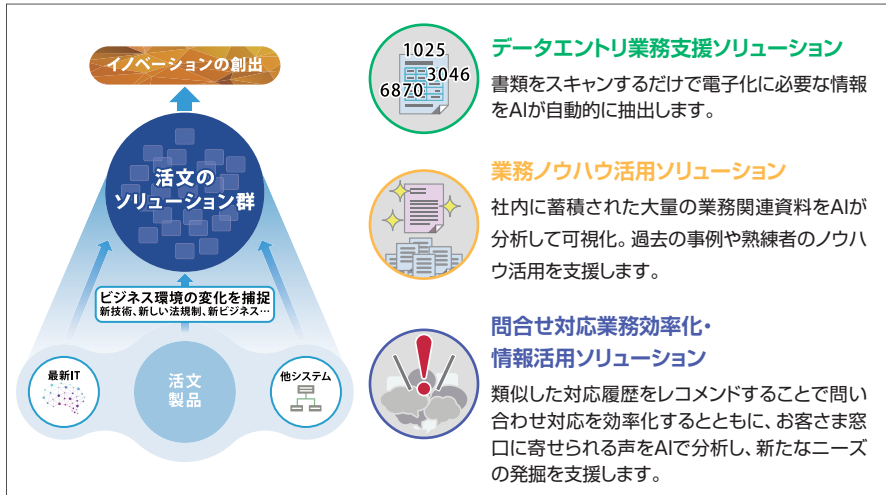


図1 活文の新たなソリューション

企業間情報共有システム

<活文 Managed Information Exchange>

海外拠点、取引先、企業内外の業務関係者とコラボレーションするための情報共有基盤です。組織や国境を越えたコミュニケーションをサポートしながら、プロジェクトに関する社内外の情報を一元管理。情報をセキュアに守り、大容量ファイル転送で業務のスピードを上げ、新しいビジネス価値の創出を支援します。

■AIを取り入れた新たなソリューションを提供

2017年から活文は、これらの製品群の提供とともに、企業が蓄積したビジネスデータを「識別・分類」「予測・レコメンド」するAIを取り入れた新たなソリューションを開発。これまでシステム化が困難だった、さまざまな業務課題を解決し、付加価値の高いビジネスイノベーション

の創出に貢献していきます。今回はその中から「データエントリ業務支援ソリューション」「業務ノウハウ活用ソリューション」「問合せ対応業務効率化・情報活用ソリューション」を紹介します(図1)。

データ入力をAIで自動化する「データエントリ業務支援ソリューション」

IT活用による効率化・自動化が浸透している企業でも、いまだ旧態依然の業務が存在しています。それが「データ入力」です。ビジネス現場では注文書、請求書など、さまざまな書類が日々大量に発生しており、書類の情報をシステムに入力するには、定型書類でない限り、人手に頼るしかないのが現状です。

例えば、ある卸売業のお客さまは、EDI<sup>※3</sup>取引ではないお客さまからのFAX注文書を受注システムへ手入力するた

め、数十名の入力要員で24時間3交代のシフト制をしいています。同様に、ある商社のお客さまは取引先からの請求書、領収書、伝票など月数万枚に及ぶ書類を数百名の要員を使って基幹システムへ手入力しているため、人的コストがかさむだけでなく、人手による入力ミスが多発が企業の大きな課題となっています。

そこで日立ソリューションズが提供するものが、さまざまな書類からAIが記載情報を自動抽出し、システム入力作業をサポートするデータエントリ業務支援ソリューションです。

本ソリューションは、データ自動抽出基盤「活文 Intelligent Data Extractor」を中核とし、OCR<sup>※4</sup>が読み取った書類データに対し、AIが書類内の日付・社名・金額など各項目の位置を判断し、必要なテキストを自動抽出。担当者は抽出結果をチェックするだけなので、システム入力作業を軽減し、業務スピードを速めることができます(図2)。

※3 Electronic Data Interchange  
 ※4 Optical Character Reader

■フォーマットに依存せず、機械学習で精度も向上

取引先ごとにフォーマットが異なる書類でも、けい線や周辺の文字情報から候補を抽出するため、抽出キーワードを定義しておけば、一般的なスキャニング/OCR処理のように、そのつどレイアウト定義を変更する必要がありません。万一、抽出された候補が誤っていた場合でも、正しい候補をクリックするだけでAIが自動学

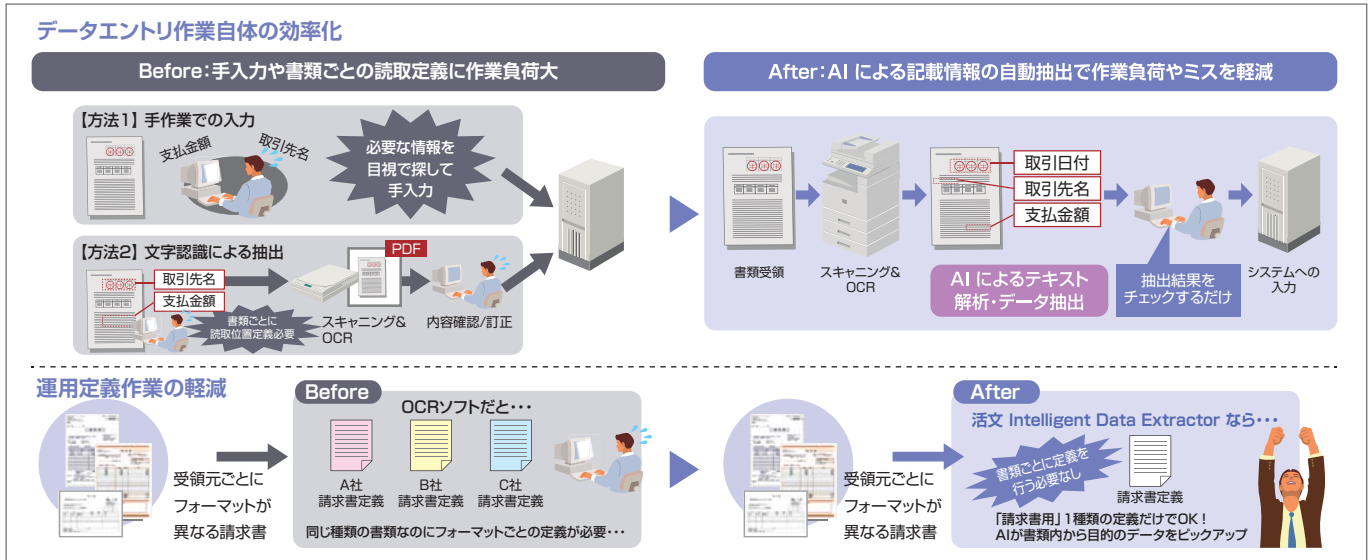


図2 AIによるデータ入力作業の効率化

習。次回からの認識精度が向上します。また、OCRオプションを適用することで、スキャン画像上の活字や手書き文字のOCR処理からデータ抽出まで、本ソリューションで一貫して処理することが可能となります。

さらにRPA<sup>※5</sup>製品と連携し、書類の読み込みから既存の業務システムへのデータ入力まで広範囲な自動化を実現するため、作業負担や人的ミスを軽減できます。

※5 Robotic Process Automation

**■作業コストを削減**

年間50万枚の書類を手作業でデータ入力している業務<sup>※6</sup>の場合、本ソリューションを適用すると、1枚あたり1分の作業時間が20秒に短縮され、専任で約5人/年必要だった人員を、約2人/年に削減できる効果が試算できました。コ

スト削減に加え、人員をより戦略的な業務に最適配置することが可能です。

※6 スキャン画像を視認しながら15項目/枚(1枚1帳票)をシステムへ入力するものと想定。作業時間は日立ソリューションズでの実測値をもとに設定

データ入力業務支援ソリューションは、手作業でのデータ入力ネックとな

り、これまで分断されていたフロントオフィス業務と基幹系業務をつなぐ重要な役割を果たします。今後も日立ソリューションズは、業務全体のスピードアップを図るとともにお客さまニーズへの対応力を高め、新しいビジネスの可能性をきり開くための支援を行っていきます。

**「データ入力業務支援ソリューション」の適用例**

**★取引先からの注文受付に**  
取引先から受領した大量の注文書の内容をAIで自動抽出。業務システムへの登録作業を効率化します。

**★旅費精算における電子帳簿保存法対応支援に**  
領収書のスキャンデータからAIが情報を自動抽出し、属性情報として登録。会計システムから出力される帳簿・帳票とスキャン文書をひもづけて管理することで、電子帳簿保存法への対応を支援します。

**★情報の活用促進に**  
設計図や企画書など過去の紙文書を電子化する際、フォーマットがバラバラの書類の表紙から、タイトルや担当者の情報を自動抽出。分類を効率化します。